



安全衛生

あれこれ

49

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

死亡災害発生状況を知っておく

起きたことは、また起きる

労働局のホームページ（災害統計）に掲載された「死亡災害発生状況」（一覧表）をご覧になっていただきますか。他社他業種の事例であっても災害防止対策のヒントを得て、自社の安全衛生活動に役立てることは、リスク管理と同様に重要です。過去に起きた災害は、また起きます。次は自社だと考え対策を講じましょう。

最近、皆さんにお勧めしているのが、この「死亡災害発生状況」（別掲）を拡大コピーして、職場に掲示することです。働く人たちがこれを見て防止対策を話し合い災害防止の決意を新たにすることを願っています。また、安全衛生委員会の議題として協議し、対策のコメントを付記して掲示することも意義があるでしょう。

別掲1の資料は岐阜労働局のHPからの引用です。特に同局では、詳しく発生状況と対策がイラスト付きで紹介されています。ここで掲載した災害は、被災者がクレーンのバケットに一人乗り自ら無線操作で酸欠状態のピットに降りたのです。酸欠危険場所の表示、

換気、測定、教育等の管理がどうなっていたのか気になります。他業種においてもピット、マンホール等の酸欠危険場所は存在します。他人事ではありません。映画「ターミネーター2」で似た一場面がありました。これは現実です。

次に、他の災害を同局HP掲載のイラストを引用して紹介します（別掲2）。最初の事例は、昇降機の内側に頭部を入れた際に、機械が作動して挟まれたもので、カバーの設置と内部に入る場合は機械を確実に停止させることが必要です。主に製造業で繰り返し返されている定型な災害です。

2番目は、バックするトラックの誘導時における挟まれ災害です。以前、私が乗用車を駐車場にバックで入れようと運転した際に、車のすぐ後ろで知人が誘導しました。その後ろには壁があり「挟まれると危ないから離れてよ」と言うのと「見易いでしょう」と困った返答がありました。人は

（別掲1）

令和5年 死亡災害発生状況	
発生月	発生場所
11月	岐阜県内
男性	20代
オペレーター	その他
<p>災害発生概要 （概要の内容は、同種災害発生状況から転載を和えています。）</p> <p>ごみ処理施設において、クレーンオペレーターがごみ破砕ピット内に落下させた落下物を探すため、クレーンのごみ掴みバケット上部に乗り込み、壁面制止器具を使用し、自ら無線操作してピット内に降りたところ、意識を失いピット内で倒れたもの。</p> <p>同種災害を防止するための対策例 酸欠欠元のおそれのある場所に立ち入る際は、事前に酸素濃度の測定を行い、酸素濃度が低い場合は、十分に換気を行うこと。 エアラインマスク等を着用して立ち入りすること。</p>	
<p>略号 同種災害発生状況から転載を和えています。</p>	
<p>事故の型 有害物等との接触</p>	
<p>原因 昇降機等の接触</p>	

HP「岐阜労働局 災害統計」からの部分引用

（別掲2）

岐阜局 死亡災害発生状況から引用

1. 昇降機に頭部を挟まれた。

1. トラックの誘導時、誘導者が柱との間に挟まれた。

1. 蜂刺されによりアナフィラキシーショックが起きた。

2. カバーの設置、機械の運転停止等。安全衛生規則第107条の措置。

2. 誘導者の位置は車の前後は避ける。

2. 作業者の既往歴調査とエピペンの携行。

側面は、レールギア反応が短い時間で、全身に激しく現れることで、全国で年間約15人が蜂被害により死亡しています。このショックを緩和するのは「エピペン」（アドレナリン自己注射薬）という薬剤ですが、使いこなすには知識と訓練が必要です。詳しくは「公式エピペンサイト」「NHK健康チャンネル」「アナフィラキシー」「日本アレルギー学会」「ガイドライン2022」等のWEBサイトに記されています。ご覧になることをお勧めします。